

目に見える形で社会貢献活動を実施し、 業界の未来の発展に向けた一歩を築く

香川県遊技業協同組合

「『香川パチンコ・パチスロの日』を制定、
社会貢献の一環として『地域清掃活動』を
実施」事業



理事長
平山 剛さん

選考理由

創立70周年を記念して「香川パチンコ・パチスロの日」を12月1日に制定し、県内61店舗、総勢254人が「元気に挨拶」を合言葉に道行く人々に声をかけながら清掃活動を行った。TVでも取り上げられ一般の耳目を集めた。この活動は新しい顧客層の獲得に繋がり、イベント当日前の日曜日に比較すると26%の増客であったという。縮みがちな社会情勢の中にあっては、個ではなく手を組んで目標を明るく掲げて協力する体制こそが最善のエネルギーであることを教えてくれた。

社会貢献活動審査委員会 委員 協田直枝氏

「香川パチンコ・パチスロの日」を制定 全ホールが一斉に地域清掃活動を実施

かつては、善行は人知れず陰で積むのが美徳であるという考え方があったが、CSR(企業の社会的責任)の概念が定着するにつれ、企業レベルで行うような社会貢献活動は、むしろ社会的に目に見える形で実施するほうが、その波及効果も活動主体の認知度も向上するように思われる。その意味で、香川県遊技業協同組合(以下、香遊協)が2024年末に実施した事業は注目してほしい。

同年12月に創設70周年を迎えた香遊協では、業界の深刻な課題となっているホール店舗数や遊技人口の減少を防ぎ、未来に向けて増客や発展を目的に、12月1日を「香川パチンコ・パチスロの日」として制定し、県内のパチンコ・パチスロホール(非組合員8店舗を含む全61店舗)が参加する周年イベントを実施した。当日、午前9時の時報を合図に、全ホールの店内及び周辺道路などで「元気に挨拶」を合言葉に、住民の目に見える形で地域清掃活動を行った。総勢254名が参加し、歩道や植え込みなどのごみを拾

いながら、すれ違う住民に挨拶をした。1時間の清掃後、全ホールが10時に一斉に開店した。なお、その実施に先立ち、香遊協では事前告知活動として平山剛理事長以下39名(四国遊技機商業組合からの参加者含む)の組合員有志が参加し、11月17日午前9時から1時間、観光名所である香川市の栗林公園の駐車場、隣接する国道11号の歩道の清掃を行った。参加者は香遊協のネーミングが入った赤色のビブスを着用し、落ち葉などを丁寧に収集した。

12月1日の清掃活動の様子は地元テレビ局の瀬戸内海放送や西日本放送で放送されたほか、業界紙などでも取り上げられた。

香遊協では、「地域のために貢献することが業界の原点であることを再認識できた。今後も未来に向けてファンを増やすなどの発展に努めていく」。



総勢254名が参加した地域清掃活動



災害列島で暮らすうえで欠かせない 災害時に役立つ支援物資を市に寄贈

船橋遊技場組合

(千葉県遊技業協同組合)

「クイックシェルター(個室テント)及び
パーソナルコンピュータの寄贈」事業



組合長
織田信幸さん

選考理由

クイックシェルターは災害時にプライバシーを確保する隔離空間として注目を集めている。日本における緊急避難場所は、小中学校の体育館等、生命の安全を確保する事を第一目的としており、長期の生活空間としては機能しておらず、仮設住宅等が設営されるまでの生活に多くの課題や不満がある。これらを大きく解決する方法の一つがクイックシェルターであり、今後益々災害時での利用が期待されている。これらを踏まえた寄贈は最優秀賞として賞するに値する。

社会貢献活動審査委員会 委員 荒生 均氏

避難所内でのプライバシー確保に役立つ 組み立て簡単な個室テントを寄贈

2024年元日に北陸地方を襲った能登半島地震は、まだ記憶に新しい。復興に向けた動きは進められているものの、珠洲市や輪島市などを中心に依然としてその爪跡は大きく残されている。1995年の阪神・淡路大震災から30年が経過したが、その間だけでも、最大震度7以上の激甚な地震は新潟県中越地震、東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震、そして能登半島地震と6回も発生している。さらに、未曾有の被害が予想される南海トラフ巨大地震が、今後30年以内に80%程度の確率で起きるとされている。地震に加え、「観測史上最大規模」と表現されるような大雨や豪雨も頻発している。文字通り、日本は「災害列島」である。災害による被害を最小に抑えるためにも、常日頃から災害対策に取り組む必要がある。

地域との共存共栄を掲げる船橋遊技場組合では、災害発生時に被災した市民の支援に役立ててほしいと、2024年4月に簡単に組み立て可能な避難所用の個室テン

ト「クイックシェルター」53張とハザードマップ閲覧用のパソコン一式を船橋市に寄贈した。テントは軽くて移動しやすいうえ、入り口のシートを下ろすだけで容易にプライバシーを確保できるようになっている。テントは市の防災倉庫に常備し、パソコンは市役所の窓口で市民がハザードマップを閲覧できるようにになっている。

市役所で行われた感謝状贈呈式で、織田組合長は「お世話になっている船橋市に対し、防災関係で力になれることはないかと考え、寄贈に至りました。有効に活用していただきたい」と述べたのに対し、松戸徹船橋市長からは「能登半島地震があったなか、市の防災体制を一步前進させることができた」との謝辞をいただいた。

同組合では、20年以上にわたり、特殊詐欺防止のための電話de詐欺防止機器や災害対策物資などを市に寄贈し続けている。



避難所用の個室テント「クイックシェルター」の寄贈式